

第66回奥羽大学歯学会 プログラム・予稿集

日 時：平成30年11月10日(土) 9：25～14：50

口演発表 9：30～11：40

14：20～14：50

第66回特別講演 13：00～14：20

症例展示 9：30～14：50

会 場：奥羽大学歯学部附属病院棟5階臨床講義室

福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

1. 受付は会場入口に設けます。
2. 会場の座席は順番につめて着席して下さい。
3. 討議にはマイクをご利用下さい。

発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を金 (E-mail : h-kon@den.ohu-u.ac.jp) までテキスト添付にてご送信下さい。(800字程度)
2. 口演発表
 - 1) 液晶プロジェクターによる口演
 - ①単写のみです。
 - ②事前にデータファイルの提出をお願いします。
※USBフラッシュメモリーで提出して下さい。
※データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。またファイルサイズは10Mバイト以下でお願いいたします。
 - ③学会当日はお持ちいただいたデータの内容をこちらで用意したコンピュータで実行しますので、発表用のPCを当日ご用意していただく必要はありません。
 - ④こちらで用意できるコンピュータのOSはWindowsのみです。
これらの環境下での動作確認を必ず行って下さい。
 - ⑤学会開催前日午後より試写会場で行います。 データをお持ちになり学会会場にお集まり下さい。
※ソフトウェアのバージョン等によっては用意したPCでは動作しない場合も考えられますので、可能でしたらご自分のPCと電源も一緒にお持ち下さい。
 - ⑥運営を支障なく円滑に行うため、ファイルの容量を極力抑えて下さいますようお願いいたします。
 - ⑦利益相反 (COI) の開示：COIの有無に関わらずスライドでCOI状態を開示頂きます。全ての口演者は、2枚目のスライドに「利益相反 (COI) 開示について」の題目で報告をしてください。
 - 2) 口演時間
演者は、口演開始10分前に次演者席に着席して下さい。
口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。
時間の経過については、下記の合図で知らせます。
7分経過 (口演終了1分前)；ベル1回
8分経過 (口演終了)；ベル2回
10分経過 (質疑終了)；ベル3回
なお、口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ち下さい。
3. 症例展示、I.C.S.報告
 - ①午前9時15分までに所定のパネル、机に展示して下さい。
 - ②撤去は午後2時50分以降にお願いします。
 - ③発表時や会場内および開催都市の写真掲示を歓迎いたします。

座長をなさる方へ：

1. 口演時間の厳守をお願いします。
2. 次の座長の方は5分前までに次座長席にお着き下さい。

第66回奥羽大学歯学会プログラム

9:25～開会の辞

大野 敬 会長

一口演発表(学位口演発表 2演題) —

9:30～9:50

座長 高田 訓

1. 臼歯部ブリッジのプロビジョナルレストレーションにおけるPEMAとアネトールを基材とした仮着材の保持力に関する実験的研究
○五十嵐一彰¹、盛植泰輔¹、石田喜紀²、岡田英俊²
(奥羽大・大学院・生体材料・医用工学¹、奥羽大・歯・生体材料²)
研修コード1003 関連項目 (1) 1109 (2) 0602
2. スプリント装着時の心拍変動による自律神経の変動について
○保田 穰^{1,2}、杉田俊博^{1,2}、清野晃孝^{1,2}
(奥羽大・大学院・総合診療歯科¹、奥羽大・歯・臨床²)
研修コード0703 関連項目 (1) 1106 (2) 0702

一口演発表(一般口演発表 13演題) —

9:50～10:20

座長 高橋 慶 壮

3. 術前顎矯正治療に光学印象を用いた臨床応用の検討
○川鍋 仁¹、黒田栄子¹、村杉 嶺²、双石博之¹、福井和徳¹
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・大学院・口腔機能回復顎顔面口腔矯正²)
研修コード0802 関連項目 (1) 0803 (2) 0802
4. インプラント上部構造固定用スクリューのリバーストルクに関する実験的研究
○酒井悠輔、河村享英、宗形真希、船川竜生、関根秀志
(奥羽大・歯・歯科補綴)
研修コード0603 関連項目 (1) 0602 (2) 1001
5. 歯面処理材のリン酸濃度と処理時間の違いがコンポジットレジン
の接着強さに及ぼす影響
○齋藤龍一、大木達也、盛植泰輔、五十嵐一彰、石田喜紀、岡田英俊
(奥羽大・歯・生体材料)
研修コード1003 関連項目 (1) 0413 (2) 0403

休憩 10:20～10:30

10:30～11:10

座長 川原 一郎

6. 32年の経過をとった散発性巨大型セメント質腫の1例
○櫻井裕子¹、遊佐淳子¹、伊東博司¹、高田 訓²、白田真浩²、浜田智弘³
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御・口腔病理¹、奥羽大・歯・口腔外科²、
会津中央病院・歯科口腔外科³)
研修コード11022 関連項目 (1) 050228 (2) 059999

7. 術中の血圧低下によって日帰り全身麻酔を中止した1症例

○川合宏仁¹、森山 光²、佐藤璃奈²、佐藤 光²、小汲大二郎²、
今井彩乃²、木村 楽²、富田 修²、鈴木史彦²、山崎信也²
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

研修コード0804 関連項目 (1) 0302 (2) 0303

8. プロポフォール投与下の脈波変化による呼吸数測定

○佐藤 光¹、古山 昭²、大須賀謙二²、山崎信也¹、川合宏仁²
(奥羽大・歯・口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

研修コード0302 関連項目 (1) 0399 (2) 1106

9. 顎/舌下腺および口唇腺唾液分泌に対するプロポフォール投与の影響

○古山 昭¹、大須賀謙二¹、山崎信也²、川合宏仁¹
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

研修コード1106 関連項目 (1) 0302 (2) 0707

11 : 10 ~ 11 : 40

座長 鈴木史彦

10. 薬剤の象牙質への浸透性に関する研究 (第2報)

○茂呂有司¹、佐藤穩子¹、矢口剛士²、金澤朋昭¹、山田嘉重¹、木村裕一¹
(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・大学院・歯内・歯周²)

研修コード0410 関連項目 (1) 0499 (2) 1099

11. 光殺菌法による*Enterococcus faecalis*への殺菌効果に対する評価

○山田嘉重¹、木村裕一²、菊井徹哉¹
(奥羽大・歯・歯科保存・保存修復¹、
奥羽大・歯・歯科保存・歯内療法²)

研修コード0410 関連項目 (1) 1001 (2) 1104

12. FGF-2製剤「リグロス[®]」を用いた歯周再生療法の臨床的評価

○北林治彦、鈴木幹子、斎藤弘毅、山崎厚作、高橋慶杜
(奥羽大・歯・歯科保存)

研修コード0501 関連項目 (1) 0202 (2) 1003

休憩 11 : 40 ~ 13 : 00

第66回特別講演 13 : 00 ~ 14 : 20

座長 安藤 勝

テーマ：「なぜ いま「ならぬことはならぬ」か

—幕末の動乱期に「義」を貫いた会津魂の支柱である日新館教育に学ぶ—
會津藩校日新館 館長 宗 像 精

14 : 20 ~ 14 : 50

座長 板 橋 仁

13. 地域医療支援歯科における訪問歯科診療への取り組みについて

○北條健太郎¹、山家尚仁¹、佐藤健太¹、保田 穰¹、小松泰典²、渡邊 崇¹、
鈴木史彦¹、清野晃孝¹、佐々木重夫¹、瀬川 洋¹、杉田俊博¹
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科¹、奥羽大・大学院・総合診療歯科²)

研修コード0806 関連項目 (1) 0107 (2) 0905

14. 奥羽大学歯学部第2学年における解剖学小テストに関する学生の評価

○佐藤知哉、芹川雅光、宇佐美晶信
(奥羽大・歯・生体構造)

研修コード1199 関連項目 (1) 1101 (2) 0199

15. 2018年慶熙大学国際交流報告

○牧 諒¹、渡邊 丈¹、渡邊 輝¹、橋本梨沙子¹、斎藤 諒¹、中川雄介¹、
江上由華¹、竜 立雄²、川合宏仁³、山崎信也⁴、大野 敬⁴
(奥羽大・歯学部学生¹、奥羽大・歯・成長発育歯²、
奥羽大・歯・口腔機能分子生物³、奥羽大・歯・口腔外科⁴)

研修コード0111 関連項目 (1) 0112 (2) 1003

14 : 50 閉 会 の 辞

清 浦 有 祐 副会長

— 国際学会参加報告 —

16. EuroPerio 9, Amsterdam
Bone Augmentation May Present a Risk for Peri-Implant Bone Loss.
○鈴木幹子、高橋慶壮
(奥羽大・歯・歯科保存)
研修コード0603 関連項目 (1) 0501 (2) 0901

17. EuroPerio 9, Amsterdam
Subcliagnostic cemental tear may cause rapid progression of periodontitis.
○山崎厚作、高橋慶壮
(奥羽大・歯・歯科保存)
研修コード0603 関連項目 (1) 0501 (2) 0901

18. 2018 IADR, London
Effect of Impression Levels on Displacements of Analogs
○Toshikazu Ikeda, Tetsuo Yamamori, Ryohei Kaneko
(Department of Prosthetic Dentistry, Ohu Univ.
School of Dentistry, Fukushima, Japan.)
研修コード0603 関連項目 (1) 0405 (2) 1002

第66回特別講演



宗 像 精 (むなかた ただし)

略 歴

昭和8年生まれ、福島県猪苗代町出身。会津若松市立第一中学校長、会津若松市教育委員会教育長、会津若松市「あいづっこ宣言」策定委員会座長、会津若松市あいづっこ宣言推進特使。

なぜ いま「ならぬことはならぬ」か

—幕末の動乱期に「義」を貫いた会津魂の支柱である日新館教育に学ぶ—

會津藩校日新館 館長 宗 像 精

我が国の教育現場（家庭・学校・地域・職場等）が確たる不易の指針を失いながら、場当たりの指導しか思いつかぬ混迷の時代は、思えば戦後からずっと続いてきたのではないか。経済大国にはなったが、物質文明先行の醜さが染みついてしまったような気がする。かつて日本には儒教的モラルというものがあり、非常に分かり易い形で、青少年の訓育がなされていた。

まず、「五徳」という五つの徳目がある、「温・良・恭・儉・讓」これらは読んで字の如く分かり易いので、教えられなくても、こういう人格を備えればならぬということは、大体の人ではできかねないかとはともかく解っていたのである。儒教的教育が否定された戦後にも、この五徳は家庭でも学校でも社会でも生きてきたのである。

一方、「五常」という五つの常識がある。

「仁・義・礼・知・信」である。問題はこちらである。概念的であるので、教育の場では解説を要し、そのうえ「修身」がなくなり、それに変わる道徳教育（特設時間）にもばらつきが生じ、十分ではなかった。従って、これらのモラルは大人社会の変貌とともに、少年達の心から少しずつ消えていった。それでも「礼」と「知」と「信」は社会生活と密着しているので、多少形を変えてでも生き続けている。いや形を変えながら、寧ろ、偏重されていると言ってもよい。

例えば、職場に入って来る新入社員を見てもわかるとおり、人材となる若者は礼儀正しく、「礼」があり、知性に富み、「知」があり、約束事は守り「信」があり、確かに実務上はそれで成立している。

おそらくこれらのモラルは元来が儒教国固有のものではなく、西洋や米国など国際的モラルの中にも存在したので、多少ニュアンスが変わっても存続し、かつ偏重されたものと思われる。今、少年達の心から消えようとしているのは「仁」と「義」の精神だということを何よりも強く叫ばずにはいられない。

「仁」は他者に対する思いやりや労りの心であって、特に高学歴社会の過当競争の中では死語と化した。たぶん「仁」は戦後自由主義と相容れなかったのだろう。今日では「福祉」とか「ボランティア」という形で社会に組み入れる他はなくなってしまった。まさに哀しいかな、それが実態である。「義」は人の正道であり、法治国家の名のもとにこれも死語と化してきた。法律を犯せば悪い奴で法に触れなければ悪くはないのである。しかし本当にそれでいいのだろうか。

孟子は「仁は人の心なり」「義は人の道なり」と説いた。「仁」は人誰しもが持っている人間本来の心であり、「義」は誰しもが歩み従うべき道であるという意味なのである。

私たちの国は「仁」の精神を制度化し、「義」の精神を法律に委ねる「愚」をこの70年間せせと繰り返してきたのである。我が国は世界にも珍しいほどの治安の良さを維持してきたのは、儒教世代が社会を牽引したからである。「仁」と「義」がそのまま薄れていったらこの先どのような世の中になるかは自明である。数々の凶悪な事件はその確実な予兆のような気がする。

「仁」と「義」は社会的モラルを人の心のうちに水のごとく湛える器だ。青少年の心を育てるとはこの器を作っていくことではないか。そのためにもきわめて分かり易い道徳である儒教教育の見直しは何よりも早道なのではないか。これは決して反動でもなく、単に古いものを懐かしむものでもない。温故知新という先人の箴言は奥深い。かつての事象から学びとってこそ現代の事象に対応できる知恵も生まれるのではないか。衣食は足りたが、礼節は忘れられ、個人主義に名を借りた利己主義が大手を振って歩くようになった現代社会の中では、この道徳教育の重要性を肝に銘じていきたいものである。

大震災を転機にもう一度「ならぬことはならぬ」に学び、人間として恥ずかしくない「日本人の美しさ」を世界に示し、人類の平和に貢献したいものである。

大人は省みて恥じることがなければ、むやみに卑屈になったり萎縮したりせず凛たる態度を堅持して欲しい。信念に裏打ちされた恬淡たる態度は説得力があり人を動かすものである。難題にびくびくせず影に怯えることなく、「ならぬことはならぬ」で子どもと勝負して欲しい。厳しさは優しさである。

この地で生まれ育まれた「ならぬことはならぬ」という精神的伝統文化は単なる飾り物ではなく、それを現代に生かすことが最も尊いという理念のもと、「仕の掟」の現代版として策定されたものが「あいづっこ宣言」である。平成14年から青少年の心を育てる市民行動プランとして推進運動を展開中。「ならぬことはならぬ」は会津の未来永劫の黄金律でもある。

会津藩幼年者「仕の掟」

- 一、年長者の言ふことに背いてはなりませぬ
 - 二、年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
 - 三、虚言を言ふことはなりませぬ
 - 四、卑怯な振舞をしてはなりませぬ
 - 五、弱い者をいぢめてはなりませぬ
 - 六、戸外で物を食べてはなりませぬ
 - 七、戸外で婦人と言葉を交へてはなりませぬ
- ならぬことはならぬものです

あいづっこ宣言

- 一、人をいたわります
 - 二、ありがとう ごめんなさいを言います
 - 三、がまんをします
 - 四、卑怯なふるまいをしません
 - 五、会津を誇り年上を敬います
 - 六、夢に向かってがんばります
- やっつてはならぬ やらねばならぬ
ならぬことは ならぬものです

口 演 発 表 抄 録 (学 位 口 演 発 表)

9 : 30 ~ 9 : 40

1. 白歯部ブリッジのプロビジョナルレストレーションにおけるPEMAと アネトールを基材とした仮着材の保持力に関する実験的研究

○五十嵐一彰¹、盛植泰輔¹、石田喜紀²、岡田英俊²

(奥羽大・大学院・生体材料・医用工学¹、奥羽大・歯・生体材料²)

日常の歯科臨床においてプロビジョナルレストレーションの脱離や破折といったトラブルが多々散見される。本研究では、ポリエチルメタクリレートとアネトールを基材とし試作された仮着材の諸性質について走査型電子顕微鏡および解剖学的支台金型を用いて市販仮着材と比較し検討を行った。その結果、仮着材硬化体の非破壊拳動やその弾性に起因する応力緩衝作用による特異性質が観察された。

研修コード1003 関連項目 (1) 1109 (2) 0602

9 : 40 ~ 9 : 50

2. スプリント装着時の心拍変動による自律神経の変動について

○保田 穰^{1,2}、杉田俊博^{1,2}、清野晃孝^{1,2}

(奥羽大・大学院・総合診療歯科¹、奥羽大・歯・臨床²)

ブラキシズムの治療法としてスプリント療法が広く用いられているが、厚さの規定に基準はない。そこで厚さの異なるスプリントを同一被験者に装着し、心拍変動を測定する事により、スプリントの厚さの違いが自律神経にどのような影響を与えるかを検討する事を目的とした。結果、3mmのスプリント装着時のクレンチングおよびグライディング時において、正常者群およびブラキサー群共に未装着時と比較して交感神経活動の有意な数値の上昇を認めた。

研修コード0703 関連項目 (1) 1106 (2) 0702

口演発表抄録（一般口演発表）

9：50～10：00

3. 術前顎矯正治療に光学印象を用いた臨床応用の検討

○川鍋 仁¹、黒田栄子¹、村杉 嶺²、双石博之¹、福井和徳¹
(奥羽大・歯・成長発育歯¹、奥羽大・大学院・口腔機能回復顎顔面口腔矯正²)

当科では口唇・口蓋裂患者に対して、生後1週後より術前顎矯正治療を実施している。しかし、術前顎矯正治療では印象採得後に哺乳床を作成する必要があり新生児および乳児に対する印象採得は窒息の危険性がある。そのため、保護者への十分な説明を行い同意が得られた場合のみ治療を行っている。

近年、光学印象機器はめざましい発展を遂げており、奥羽大学歯学部附属病院でも本年9月より導入され、さまざまな診療科で有効に活用されるものと期待される。また、光学印象では窒息のリスクがないため、術前顎矯正治療に光学印象採得を応用することで、安全に治療できると考えた。

今回われわれは、光学印象の精度を検証し、術前顎矯正治療に応用できるか検討したので報告する。

研修コード0802 関連項目 (1) 0803 (2) 0802

10：00～10：10

4. インプラント上部構造固定用スクリューのリバーストルクに関する実験的研究

○酒井悠輔、河村享英、宗形真希、船川竜生、関根秀志
(奥羽大・歯・歯科補綴)

インプラント上部構造固定用スクリューの緩みの早期発見を目的としてリバーストルク値を計測した。実験用模型にインプラントアナログならびにアバットメントアナログを固定し、アバットメントならびにゴールドシリンダーを、アバットメントスクリューならびにリテイニングスクリューで規定トルクにて締結した。計測されたリバーストルク値は締結トルク値よりいずれも小さく、およそ60～75%であった。

研修コード0603 関連項目 (1) 0602 (2) 1001

10：10～10：20

5. 歯面処理材のリン酸濃度と処理時間の違いがコンポジットレジン の接着強さに及ぼす影響

○齋藤龍一、大木達也、盛植泰輔、五十嵐一彰、石田喜紀、岡田英俊
(奥羽大・歯・生体材料)

近年、コンポジットレジンの接着操作は1ステップシステムに移行しつつあるが、従来の接着システムと接着強さを比較したとき、低い値を示すことが指摘されている。そして、歯面処理材と1ステップシステムを併用することで必要十分な接着強さを得られることが多くの研究から報告されている。一般的に歯面処理材はリン酸を主成分とするが、リン酸濃度や処理時間は各社製品により様々である。そこで、歯面処理材のリン酸濃度と処理時間の違いが接着強さに及ぼす影響を比較検討した。

研修コード1003 関連項目 (1) 0413 (2) 0403

10：30～10：40

6. 32年の経過をとった散発性巨大型セメント質腫の1例

○櫻井裕子¹、遊佐淳子¹、伊東博司¹、高田 訓²、臼田真浩²、浜田智弘³
(奥羽大・歯・口腔病態解析制御・口腔病理¹、奥羽大・歯・口腔外科²、
会津中央病院・歯科口腔外科³)

症例は40歳、女性。1986年（患者年齢8歳）に下顎左側の腫瘍形成を指摘されたというが、詳細は不明。90年6月、上顎両側臼歯部と下顎の左側切歯部から右側大臼歯部に膨隆がみられ、歯原性腫瘍の臨床診断にて下顎骨部分切除術が施行され、手術材料の病理組織学的診断は cementifying fibroma であり、その後、下顎骨に腫瘍再発はみられなかった。その後、99年、00年、03年、04年、05年、07年、16年および18年に上顎骨に再発が生じた。16年の再発時の臨床病理学的検討により、本例は散発性巨大型セメント質腫と診断された。

研修コード11022 関連項目 (1) 050228 (2) 059999

10：40～10：50

7. 術中の血圧低下によって日帰り全身麻酔を中止した1症例

○川合宏仁¹、森山 光²、佐藤璃奈²、佐藤 光²、小汲大二郎²、
今井彩乃²、木村 楽²、富田 修²、鈴木史彦²、山崎信也²
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

障害者に対する安全な日帰り全身麻酔では、周術期管理が重要となる。今回、術前管理における高血圧治療薬の内服によって、日帰り全身麻酔中の血圧低下が著明となり、全身麻酔下歯科治療の途中中止を経験したので、若干の考察を加え報告する。

研修コード0804 関連項目 (1) 0302 (2) 0303

10：50～11：00

8. プロポフォール投与下の脈波変化による呼吸数測定

○佐藤 光¹、古山 昭²、大須賀謙二²、山崎信也¹、川合宏仁²
(奥羽大・歯・口腔外科¹、奥羽大・歯・口腔機能分子生物²)

歯科・口腔外科領域のプロポフォールによる静脈内鎮静では、呼吸状態を把握しようとしても、開口器による上気道閉塞のため評価し難くなる。一方、レスピラトリーモニター PM1000N[®]は、脈波解析することにより、呼吸数測定が可能となる機能をもつ。そこで、本機器を用いて、静脈内鎮静中に脈波解析によって算出された呼吸数が、目視計測による呼吸数または E_TCO_2 による呼吸数とどのように相関するのかを検討した。

研修コード0302 関連項目 (1) 0399 (2) 1106

11:00 ~ 11:10

9. 顎／舌下腺および口唇腺唾液分泌に対するプロポフォール投与の影響

○古山 昭¹、大須賀謙二¹、山崎信也²、川合宏仁¹

(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・口腔外科²)

唾液分泌量は副交感神経優位で増大し、唾液タンパク質量は交感神経優位で増大することが知られている。一方、プロポフォールによる静脈内鎮静では、交感神経活動が抑制され副交感神経活動が優位になることにより、ストレスが緩和されることが報告されている。そこで我々は、プロポフォール投与が顎／舌下腺および口唇腺の唾液分泌量および唾液アミラーゼ活性にどのような影響を及ぼすかを調べ、若干の知見を得たので報告する。

研修コード1106 関連項目 (1) 0302 (2) 0707

11:10 ~ 11:20

10. 薬剤の象牙質への浸透性に関する研究 (第2報)

○茂呂有司¹、佐藤穂子¹、矢口剛士²、金澤朋昭¹、山田嘉重¹、木村裕一¹

(奥羽大・歯・歯科保存¹、奥羽大・大学院・歯内・歯周²)

感染根管では、象牙細管の中まで細菌が侵入していることが報告されており、我々は第64回奥羽大学歯学会にてヒト抜去歯を用いて追跡しやすい金属イオンを含有する根管消毒薬(フッ化ジアミン銀)が根管象牙細管内に浸透することを確認した。今回、ヒト抜去歯の根管内にヨードヨード亜鉛溶液を使用してイオン導入を通常法に従って行い根管内への浸透の程度に関してスミヤー層の有無でどのように異なるかをエネルギー分散形エックス線分析装置(SEM-EDX)にて観察・分析し、若干の知見を得たのでここに報告する。

研修コード0410 関連項目 (1) 0499 (2) 1099

11:20 ~ 11:30

11. 光殺菌法による*Enterococcus faecalis*への殺菌効果に対する評価

○山田嘉重¹、木村裕一²、菊井徹哉¹

(奥羽大・歯・歯科保存・保存修復¹、

奥羽大・歯・歯科保存・歯内療法²)

本研究では、次亜塩素酸ナトリウムを用いた根管洗浄にかわる新たな根管殺菌法として低出力の半導体レーザーおよびBlue lightレーザーによる光殺菌法の効果を難治性根尖性歯周炎の原因菌と考えられている*E faecalis*を対象として比較検討した。その結果低出力半導体レーザーを使用した光殺菌療法では、5分間以内の照射で*E faecalis*の殺菌が確認された。一方、Blue lightレーザーによる殺菌法では*E faecalis*の殺菌効果は確認されなかった。

研修コード0410 関連項目 (1) 1001 (2) 1104

11：30～11：40

12. FGF-2製剤「リグロス[®]」を用いた歯周再生療法の臨床的評価

○北林治彦、鈴木幹子、斎藤弘毅、山崎厚作、高橋慶壮
(奥羽大・歯・歯科保存)

2016年12月よりヒト塩基性線維芽細胞増殖因子 (FGF-2) 製剤「リグロス[®]」の使用が可能になった。演者らはこれまで約90症例に使用し、副作用等はなく、良好な結果を得ている。本剤は保険適応であるため、本療法の恩恵を受けられる歯周病患者が今後増加すると推測されるが、患者教育を含めた歯周基本治療が基盤となることは論を待たない。本報告では、「リグロス」を用いた歯周組織再生療法のポイントおよび実際の症例を紹介し、過去の論文を参考に考察を加える。

研修コード0501 関連項目 (1) 0202 (2) 1003

14：20～14：30

13. 地域医療支援歯科における訪問歯科診療への取り組みについて

○北條健太郎¹、山家尚仁¹、佐藤健太¹、保田 穰¹、小松泰典²、渡邊 崇¹、
鈴木史彦¹、清野晃孝¹、佐々木重夫¹、瀬川 洋¹、杉田俊博¹
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科¹、奥羽大・大学院・総合診療歯科²)

当科は平成28年4月に設立され、多様な業務の一つとして訪問歯科診療を実施してきた。訪問歯科診療は歯科治療のみならず、口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーション、施設での介護保険算定への協力も実施している。さらに、訪問歯科診療を実施する施設の増加に伴い診療件数も平成28年度 (92件)、平成29年度 (177件)、平成30年度 (4月～9月：429件) と大幅に急増している。

そこで、現在までの活動内容と今後の展望について報告する。

研修コード0806 関連項目 (1) 0107 (2) 0905

14：30～14：40

14. 奥羽大学歯学部第2学年における解剖学小テストに関する学生の評価

○佐藤知哉、芹川雅光、宇佐美晶信
(奥羽大・歯・生体構造)

平成29年度「解剖学」講義において毎回の講義直前に行われる小テストが学生の学習習慣に与えた影響を評価するとともに、学生の「小テスト」に対する評価をアンケートによって行った。

学習時間の増加を強いられる小テストに対する学生の評価は「普通」「良い」「かなり良い」の評価が90%以上を占めており、専門科目が始まる第2学年において、小テストにより日常的に評価を行うことで一部の学生では学習習慣が改善されていると考えられた。

研修コード1199 関連項目 (1) 1101 (2) 0199

14 : 40 ~ 14 : 50

15. 2018年慶熙大学国際交流報告

○牧 諒¹、渡邊 丈¹、渡邊 輝¹、橋本梨沙子¹、斎藤 諒¹、中川雄介¹、
江上由華¹、竜 立雄²、川合宏仁³、山崎信也⁴、大野 敬⁴
(奥羽大・歯学部学生¹、奥羽大・歯・成長発育歯²、
奥羽大・歯・口腔機能分子生物³、奥羽大・歯・口腔外科⁴)

2018年7月30日から8月7日まで、本学の姉妹校である韓国慶熙大学歯学部の附属病院とその関連施設における研修に際し、本学の7名の学生が参加した。研修内容は、大学病院とその関連施設での臨床業務の見学と講義、大学キャンパス内の見学、歯科医療機器製造のVatec社の工場見学などで、これらの研修を通して慶熙大学の先生や学生さんと交流を行った。今回、私たちが体験した研修とその交流内容について報告する。

研修コード0111 関連項目 (1) 0112 (2) 1003

第67回奥羽大学歯学会予定
日時：平成31年6月8日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳(成長発育歯)*、金 秀樹(口腔外科)*、宇佐美晶信(生体構造)*、
山崎信也(口腔外科)、島村和宏(成長発育歯)、菊井徹哉(歯科保存)、
車田文雄(口腔衛生)、前田豊信(口腔機能分子)、古山 昭(口腔機能分子)、
大橋明石(口腔衛生)

*学会理事
